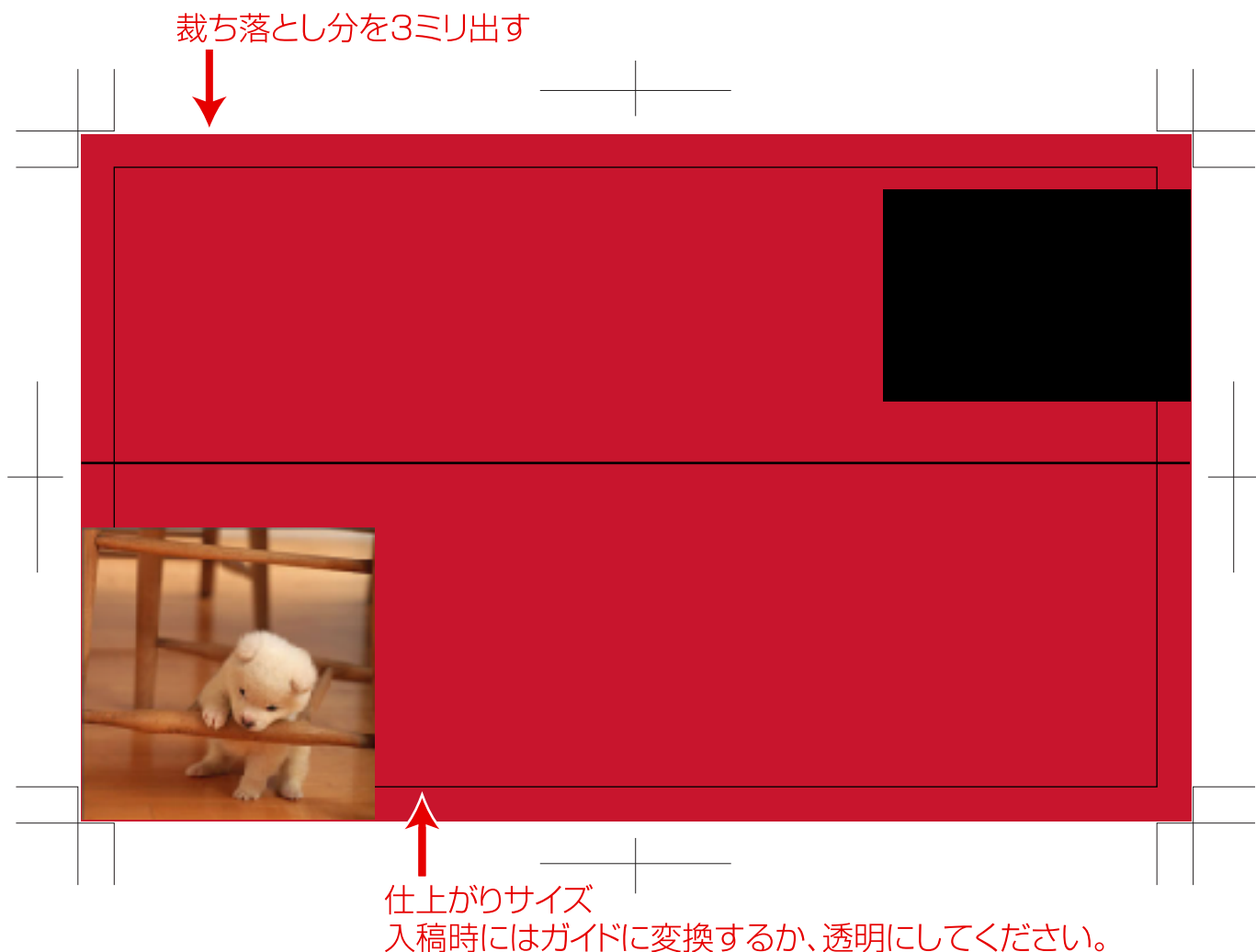


塗り足しをつける

印刷の専門用語である「塗り足し」とは、写真画像・図形・線などが仕上がりサイズの断裁位置にあってそのサイズがぴったりの大きさしかない場合に、上下左右に3mmずつ余分に出すことを言います。

印刷時の微妙な用紙のブレや断裁時のブレに対応して、余裕を持たせるためのものとなります。

印刷物は1枚ずつ切るわけではないため、この塗り足しをつけることで断裁時の若干のズレによる紙の地色が出てきてしまうのを防いでいます。



画像・線・図形など、仕上がり線にかかるものは全て延ばす・拡大するなどして塗り足しをつけてください。